

要望書

令和元年 7 月

相模原市公共交通網の整備を促進する会

相模原市内の公共交通網の整備推進について

平素から、「相模原市公共交通網の整備を促進する会」の活動につきまして、格別のご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

当会は、道路、鉄道、新交通等の早期実現、整備促進に係る要望等により、相模原市内の産業振興と安全・安心な市民生活の確保に向け取り組みを進めております。

さて、相模原市では、平成27年3月に首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）の相模原インターチェンジが完成したことにより、市内区間及びインターチェンジが全て供用開始となり、主要都市へのアクセスが飛躍的に向上したことから、物流施設や製造業が立地するなど民間投資が促進し、新たな雇用が創出されているところでございます。

また、リニア中央新幹線神奈川県駅の設置、小田急多摩線の延伸及び相模総合補給廠の一部返還地の活用など、広域交流拠点としてのポテンシャルを飛躍的に高める大規模なプロジェクトが動き始め、広域的な交通ネットワークとその周辺整備が進められ、今後、相模原市のさらなる産業振興と市民生活の向上が期待されているところでございます。

しかしながら、市内幹線道路においては、慢性的な渋滞は十分に解消されておらず、現在も経済活動や市民生活に多大な影響を及ぼしております。

広域的な交流を支える交通体系の確立は、企業立地の促進や市民生活

の利便性向上に寄与するとともに、新しい拠点の整備、さらには観光振興にも期待できることから、人や企業に選ばれる都市をつくるため、次の事項に関しまして、特段のご配慮を賜りたく要望いたします。

1. 圏央道のアクセス道路の早期整備

- (1) 相模原愛川インターチェンジへのアクセス道路関係
 - 平成26年5月に都市計画決定をした県道52号(相模原町田)の「県道46号(相模原茅ヶ崎)から都市計画道路古淵麻溝台線までの区間」について、早期に整備を図ること。
- (2) 相模原インターチェンジへのアクセス道路関係
 - 平成22年度に都市計画決定をした津久井広域道路の「串川ひがし地域センターから国道412号までの区間」について、早期に整備を図ること。
 - 津久井広域道路の国道412号以西のルート未決定の区間について、早期にルートの決定を図ること。また、南岸バイパスについて、早期に事業着手すること。
 - リニア中央新幹線神奈川県駅（橋本駅南口）周辺地区とを結ぶ利便性や速達性の高い道路整備について、津久井広域道路をベースに早期に具体的なルートを決定し、リニア開業時には整備が完了するよう取り組みを進めること。

2. 新道路整備計画の着実な推進

平成28年度に改定された「新道路整備計画」を着実に推進すること。

- (1) 首都圏南西部の広域交流拠点として機能を発揮し、周辺都市との広域的な交流・連携を支えるため、広域幹線道路の整備を推進すること。
 - ・津久井広域道路
 - ・県道51号（町田厚木）
 - ・県道52号（相模原町田） など
- (2) 市内の各地域間や新たなまちづくりの拠点を結ぶ幹線道路において、円滑かつ安全で安心な移動の確保や利便性向上を図るため、地域内幹線道路の整備を推進すること。
 - ・(都) 相原宮下線
 - ・(都) 宮上横山線
 - ・(都) 宮下横山台線 など
- (3) 安全で快適な道路環境をつくるため、交差点改良や歩道整備事業などを推進すること。
 - ・二本松交差点
 - ・上中ノ原交差点
 - ・県道76号（山北藤野） など
- (4) 次に掲げる市の重要プロジェクトに関連する道路整備を推進すること。
 - ・相模原市広域交流拠点整備事業
（仮）橋本駅西通り線 など
 - ・幹線快速バスシステム導入推進事業
文京交差点 など
 - ・麻溝台・新磯野地区整備推進事業
県道507号（相武台相模原） など

3. 高速道路及び指定区間国道の対策

高速道路及び指定区間国道における渋滞解消や安全対策等の改良整備について、国に強く働きかけること。

- ・中央自動車道：小仏トンネル付近の上り線及び相模湖付近の下り線の渋滞対策事業の早期完成
- ・東名高速道路：「大和トンネル付近」の渋滞対策
- ・国道16号：「鶴野森交差点から谷口陸橋付近」の渋滞対策
「淵野辺交差点から大野台2丁目」の歩道拡幅
「国道16号の効果的な渋滞対策の実施による機能強化」に向けた取り組みの推進
- ・国道20号：「緑区小淵地区・藤野地区」の道路改良
「大垂水～相模湖間の防災機能強化」の推進

4. 必要な財源の確保等

道路整備や交通安全施設等の整備を着実に推進するため、支出の無駄を徹底的に排除し、真に必要な道路整備が停滞することのないよう令和2年度の公共事業予算を増加させること。また、地域の課題の解消に向けた道路整備を着実に推進するため、必要な財源の確保について、国に強く働きかけること。

5. JR横浜線連続立体交差事業の推進

市で検討を行ったJR横浜線の連続立体交差事業検討区間（矢部駅から橋本駅）では、交通渋滞や地域の分断などの問題が生じている。連続立体交差事業は、渋滞解消や安全性の向上だけでなく、地域の活性化や防災性の向上等に大きく寄与するため、将来の連続立体交差化に向けた取組を推進すること。

令和元年7月11日

相模原市公共交通網の整備を促進する会

会 長 相模原商工会議所会頭 杉 岡 芳 樹